

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の 母



昭和十八年
四月

大東亞戰下の入園

お子さん方の幼稚園入園をお祝ひ申し上げます。御誕生の時のお祝ひから、三、五、七と生長のお祝ひのある中に、入園のお祝ひは、初めて家庭外の教育に入られる最初のお祝ひです。やがて来る國民學校入學が大きなお祝ひであることは申すまでもありませんが、それに懸ける第一の教育祝ひです。

今年はお祝ひも、物ですること出来ません。お祝ひ、と販かにする時もありません。しかし、お子さんには生涯一度の入園です。うんと喜んであげませう。親御さんのその喜びこそ何よりのお祝ひです。

しかも、今年の入園は、國の此の大きな時に於ての入園です。喜びの中に、なんの爲の我子の教育か、何を目ざしての教育かといふことか、嚴かに考へさせられるのであります。そうして、にこくと幼稚園へゆく我子に、大きな國の輝きを擦らせて將來を想像する時、親の感じは、常の入園とは別の高さにも深さにもなります。

我子を心身完全に育て上げることは、親として先づ第一の報國です。その報國を、上にも完うせんが爲に、それらの幼稚園を選んでの入園です。今日の入園の意義、まことに深いことです。

幼稚園から

○なにしろ、家庭から始めて世間へ出たといつた譯です。うれしいと同時に緊張してゐられます。無理をしないで其の緊張をどいておあげする處に、幼稚園の苦心があります。御家庭でも、無理な仕向け方をなさらないように。

○しかし、初めが大事といふこともあります。時間を正しく登園すること、歸つたら必ず、うがひをし、手を洗ふこと、そうした習慣はきちんとなさせませう。

○「行つて参ります。」「たゞいま。」こうしたお行儀も、初めからつけければ、決して無理ではありません。行儀といふと大げさですが、こゝろいふ心持ちは幼児もちやんともつてゐるのです。それを形に出させてやるだけです。

○それにしても、時局柄、大戦下の幼稚園として、服装、持方、ものゝ質素堅實は素よりです。どうぞ、その步調を破らないで下さい。